

---

# 意思もつ弾丸

黒漆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

意思もつ弾丸

### 【Nコード】

N1049G

### 【作者名】

黒漆

### 【あらすじ】

銃口から解き放たれた弾丸に、神の悪戯からか意思が宿った。物理法則を超越して飛び続ける弾丸が望んだ意思の形、行く末。

(前書き)

ある意味、ファンタジーなのかしら？

とある国、民族紛争により毎日の日常が弾丸や銃声、悲鳴にまみれていた。

戦車が日常的に行き交い、人の命も簡単に奪われる。

原型を留めている家など無く、どの壁にも銃弾で穿たれた丸い穴が開いていた。

そんな中ある日のゲリラ戦、過激グループメンバーの銃から放たれた一発の弾丸に、意思が宿った。

重力、放物線、慣性、摩擦。全てを無視して己を回転させ、地面から一定距離を保ったまま飛行し続ける弾丸。

生まれたばかりの意思を持って余し、生きる事は飛ぶ事なのだと思は思った。

時に厚い壁を突き抜け、鉄の鎖を穿ち、業火を潜り抜け、人間の体を貫き、弾丸は己の体を磨耗させつつも延々と飛来し続ける。

海を越え、山肌を削り、砂舞う砂漠を苦も無く高速で飛び退き、全てを凍りつかせ動くもの何一つ無い大地の上空を悠然と走り抜ける。

何年も飛び続け、ある日ふと弾丸は思う。

自分の意思は何のために有るのかと、何のために自分は飛び続けているのだろうか。

弾丸は気がついていて、他に自分のような存在がこの世にいない事を。

そして疲れていた、そのまま飛び続ける事を。

弾丸は寂しさを紛らわすために人間や生き物の芯、ハートを貫いた。

心を伝えたい、苦しみを分かち合いたい、仲間が欲しい。

やがて人は弾丸に対して脅威を覚え始めた、それまではただ、気まぐれに弾丸の直線状にある人間が被害を受けていただけだった。現に貫かれたとしても死に至る者は極少数であったからだ。それが今、変容している。偶然が必然に、確実に脅威へと。

人間は弾丸に対抗しうるため、意志持つ弾丸のつがいを作った。それはオリジナルを止めるため。

通常の兵器では高速飛来し、極小で尚且つ物理法則を無視した弾丸に対抗しうる手段などなかったのだ。

かくして、意思持つ人口型銃弾は作り上げられ、研究者が構える銃から射出された。

飛来する弾丸、人々の町にはかつての賑やかさは全くと言って無かった。

氷結の大地のように物静かで何一つ動く物のない町。

人間は強化壁に囲まれた箱の中に閉じこもってしまった。

弾丸は思う、意思ある事は幸せではないのかもしれない、意思あることは悲しみを増幅させるだけなのかもしれない。

そんな時、悲しむ銃弾の前を高速で極小の物体が高速で向かってくるのが見えた。

あれは、自分の仲間？しかし、弾丸は今までも色々な戦場を飛び回り、数々の人間同士の戦いを目にして来た。

その地には自分と同じ同類の形状をした弾丸が数多く飛んでいた。しかし、意思持つ弾丸と同種のもは一つとしていなかった。

放たれて対象を貫き、物理に従い停止する。

それでも弾丸は信じてみたかった、あれはきっと自分最後の望みのかたちなのだ。

弾丸は目の前の飛来した弾丸と平行して飛ぶ。

それは意思持つ弾丸に沿うように慣性を見捨て、人が作り出した道路に沿って飛行した。

弾丸は驚きと共に久し振りに感動を覚えた。

それは初めての土地を飛行する喜び、見たことの無いものを見たときの喜び、それらを全て超越する初めての経験だった。

意思持つ弾丸達はそれから何年も飛び続けた。

平行して速度を合わせ、お互いを尊重しあうように。

二つが出会った時から生物への被害は無くなっていた。

それは意思持つ人口型銃弾がそうプログラムされていたからでもある。

弾丸を監視していた人間は言葉を漏らした、あの弾丸達は幸せそうだな、と。

やがて、意思持つ弾丸は決意した。

もう思い残す事などないと。

片割れの弾丸との並行飛行をやめ、回転速度を上げて離れる。

大きく弧を描いて彼方に置いて来た弾丸と正面から向かい合った。

そして速度を調節し二つの弾丸は綺麗に正面からぶつかり合った。

火花を散らし、二つの弾丸が融合し合う。

やがてそれは一つの鉄の塊となり地面へと落下した。

人間は喜んだ、長きに渡る監視生活に終止符が打たれたのだ。

人が脅威に感じる物は消滅した。

やがて人間は一つの鉄くずとなった弾丸を拾いに向かう。

熱を失ない、意思を失い、生物としての機能のない、元の無機物。

それを拾い上げようと人間が屈んだ時。

鉄の塊は破裂して中から極小の意思持つ弾丸達が世界に解き放たれた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1049g/>

---

意思もつ弾丸

2011年2月3日14時40分発行